

株式会社 金光組

2022年度環境経営レポート

(対象期間:2022年10月1日～2023年9月30日)



株式会社金光組



®環境省

エコアクション21
認証番号0012191

作成日： 2023/11/30

I. ごあいさつ

株式会社金光組は、昭和32年の創業以来、土木工事業を通して地域社会の発展に尽力してまいりました。全従業員が地球環境の保全の重要性を認識し、環境負荷の低減に努めることにより、美しい国土の維持、人と環境が共存する社会を目指して取り組んでまいります。

環境経営方針

当社は、ガス工事、土木工事各事業分野において、地球環境の保全のために、環境負荷の一層の低減を図るべく、経営における課題とチャンスを定期的に明確にし、全社一丸となって、自主的・積極的に環境への取り組みを行い、継続的な改善を推進します。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 二酸化炭素排出量の削減を推進します(電気、ガソリン、軽油)
3. 事務所及び建設現場での廃棄物の削減を推進します。
4. 水道使用量の削減を推進します。
5. 環境に配慮した施工監理を推進します。

本方針を全従業員に周知徹底します。

制定日：2017年9月1日
改定日：2023年11月30日
代表取締役

金光 正義

Ⅱ. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 金光組

代表取締役 金光 正義

(2) 所在地

本 社 〒710-0038 岡山県倉敷市新田2963番地1

残土置場 〒710-0038 岡山県倉敷市新田2968番地1

資材置場 〒710-0038 岡山県倉敷市新田2963番地1

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 代表取締役 金光 正義

担当者 環境事務局 金光 正義

TEL:086-427-2239

事務部 井本佑理

FAX:086-427-2245

工事部 鳥居 節夫

E-mail:y.imoto@kanemitsu-gumi.co.jp

(4) 事業内容

一般土木・建設工事業

〔 土木工事業、とび・土木工事業、舗装工事業、石工事業、管工事業、
構造物工事業、しゅんせつ工事業、水道施設工事業、解体工事業 〕

(5) 事業の規模

年間工事完成高： 394 百万円（2022年度）

	本社	資材置場	残土置場	合計
従業員 (人)	14名	無人	無人	14名
延べ床面積 (㎡)	257.93㎡	56.27㎡	－	314.2㎡
敷地面積 (㎡)	659.51㎡	903.61㎡	－	1563.12㎡

(6) 事業年度 10月～ 翌年9月

Ⅲ. 認証・登録の対象組織・活動

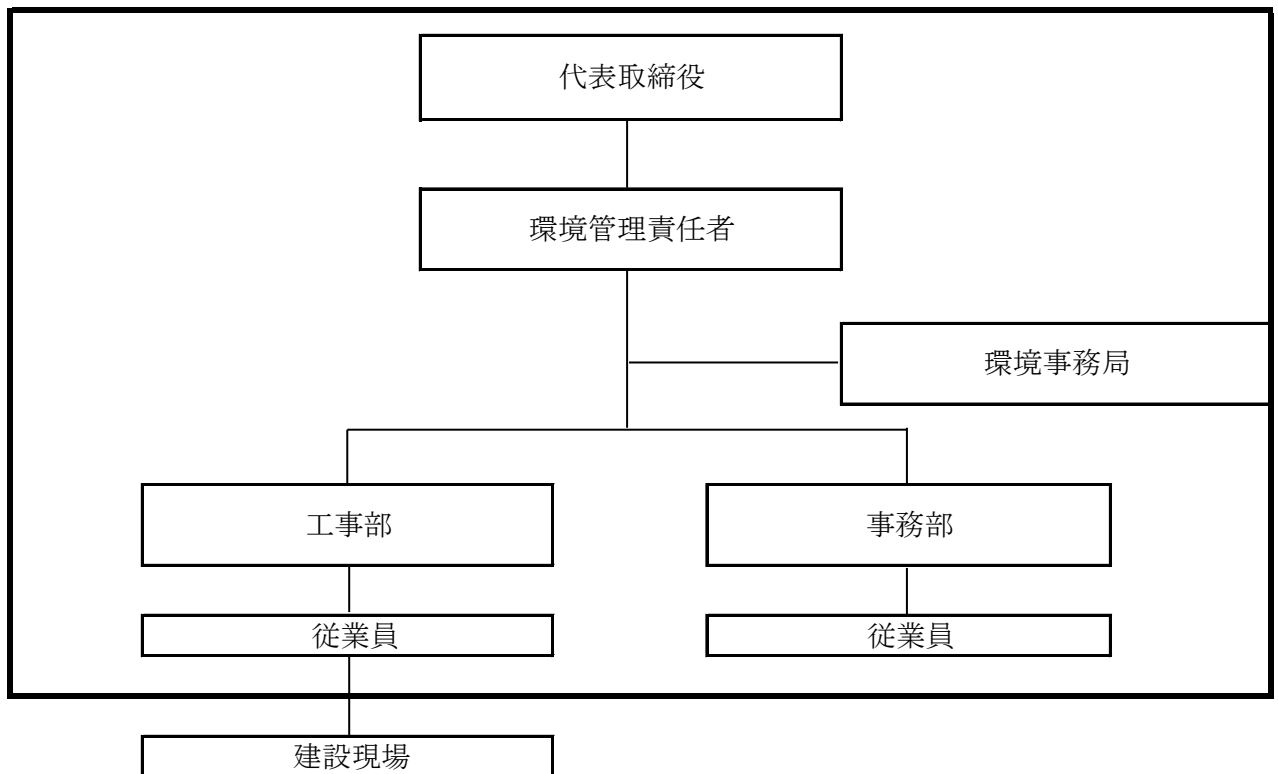
登録組織名： 株式会社 金光組

サ イ ト： 本社、資材置場、残土置場

対 象 外： なし

活 動： 一般土木・建設工事業

IV. 実施体制図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 ・環境経営レポートの承認 ・経営における課題とチャンスの定期的な明確化の実施
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

V. 主な環境負荷の実績

項 目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	93,653	79,247	75,728	92,811	72,737
電力使用量	kWh	10,873	13,143	15,300	14,056	18,827
都市ガス使用量	m ³	636				
ガソリン使用量	L	6,539	4,576	4,202	7,863	8,068
軽油使用量	L	26,967	20,561	21,728	25,276	16,382
廃棄物排出量						
一般廃棄物量排出量	kg	410	595	591	595	560
産業廃棄物排出量	トン	1,408	1,556	1,575	1,121	1,309
総排水量	m ³	165	175	309	300	228

※電力の二酸化炭素排出量係数は 中国電力公表の2019年度 0.585kg-CO₂/kWh

VI. 環境経営目標及びその実績

(1) 中期目標

年 度		基準値 (2016年度)	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
項 目						
二酸化炭素排出量 削減	kg-CO ₂	79,102	75,938	75,542	75,147	74,751
	基準年度比	100%	96.0%	95.5%	95.0%	94.5%
電力使用量削減 (事務所)	kWh	11,323	10,870	10,813	10,757	10,700
	kg-CO ₂	7,892	7,576	7,537	7,498	7,458
	基準年度比	100%	96.0%	95.5%	95.0%	94.5%
自動車燃料削減 (事務所)	ガソリン(L)	1,081	1,038	1,033	1,027	1,022
	軽油 (L)	実績把握(2021) 1637	1,571	1,563	1,555	1,547
	kg-CO ₂	6,806	6,534	6,500	6,466	6,432
	基準年度比	100%	96.0%	95.5%	95.0%	94.5%
自動車燃料削減 (現場)	ガソリン (L)	8,545	8,203	8,160	8,118	8,075
	軽油 (L)	18,334	17,601	17,509	17,417	17,326
	kg-CO ₂	67,954	65,236	64,896	64,556	64,217
	基準年度比	100%	96.0%	95.5%	95.0%	94.5%
一般廃棄物の削減	kg	実績把握(2018) 660	634	630	627	624
	基準年度比	100%	96.0%	95.5%	95.0%	94.5%
産業廃棄物の削減	t	659	633	629	626	1,308
	基準年度比	100%	96.0%	95.5%	95.0%	94.5%
節水	m ³	189	181	180	179	178
	基準年度比	100%	96.0%	95.5%	95.0%	94.5%
環境に配慮した施工 監理 (許可等の電子 申請)	件数比率	97%	93%	93%	92%	92%
	基準年度比	100%	96%	95.5%	95.0%	94.5%
課題のチャンスと推 進	点	実績把握(2021) 74	71	70	70	69
	基準年度比	100%	96%	95.5%	95%	94.5%

(2) 対象期間の実績

項 目	年 度	基準値 (2016年 度)	対象期間 2022年度		達成度 (%)	評価
			目標	実績		
二酸化炭素排出量 削減	kg-CO2	79,102	75,938	72,737	104.4%	○
	基準年度比	100%	96.0%	109%		
電力使用量削減 (事務所)	kWh	11,323	10,870	18,827	68.8%	×
	kg-CO2	7,892	7,576	11,013		
	基準年度比	100%	96.0%	72%		
自動車燃料削減 (事務所)	ガソリン(L)	1,081	1,038	1,071	104.0%	○
	軽油 (L)	1637 (2021年度)	1,705	1,447		
	kg-CO2	6,806	6,534	6,283		
	基準年度比	100%	96.0%	108%		
自動車燃料削減 (現場)	ガソリン(L)	8,545	8,203	6,997	118%	○
	軽油 (L)	18,334	17,601	14,936		
	kg-CO2	67,954	65,236	55,439		
	基準年度比	100%	96.0%	123%		
一般廃棄物の削減	kg	660 (2018年度)	634	560	113%	○
	基準年度比	100%	96.0%	118%		
産業廃棄物の削減	t	659	633	1,309	48%	×
	基準年度比	100%	96.0%	50%		
節水	m ³	189	181	228	79%	×
	基準年度比	100%	96.0%	83%		
環境に配慮した施工 監理 (許可等の電子 申請)	件数比率	97%	93%	93%	100%	○
	件(電子/全体)	457/469	658/708	662/708		
	基準年度比	100%	96.0%	96%		
課題のチャンスと推 進	点	74 (2021年度)	71	98	138%	○
	基準年度比	100%	96.0%	132%		

注1) 達成度の計算式 削減するもの：目標÷実績×100 (%)
 拡大するもの：実績÷目標×100 (%)

注2) 化学物質は実施していない

Ⅶ. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価（結果と次年度の取組内容）
二酸化炭素排出量の削減		
数値目標	○	昨年(92,811)に比べ排出量は22%減少。引き続き現場への移動効率を図る。
下記の項目とおり		
電力による二酸化炭素排出量の削減（事務所）		
数値目標	×	工事量の増加や電気自動車の導入もあり電力の使用量増加により未達。各個人の意識も向上しており、水筒やマイボトルの使用により使い捨てられる資源やゴミの減少につながっている。
・昼休みの消灯	○	次年度は事務員増員予定の為、OA機器の追加や電力の使用量増加の可能性があり、EA21の取り組みの教育を計画。
・不要照明の消灯	○	2023年度より入社時と事務所全体の教育を半期に一回実施。
・不要時のパソコン電源OFF	○	内容は上期（10月初旬に前年の結果と目標値の共有、下期に（4月初旬）上期の進捗と今後の対策の意見交換。
・OA機器の省エネモード設定	○	
・空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	○	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減（事務所）		
数値目標	○	電気自動車の導入や、本社移転による移動距離の短縮、近隣のビラ配りは自転車を使用する等の対策により目標値達成。
・エコドライブの実践	○	引き続き事前に効率的なルートを確認、他者へ目的地を共有し複数回の外出を抑え過度な移動を減らす等対策していく。
・効率的なルートで移動	○	また、エコドライブチェック表を作成、運用開始し個々の意識の向上に努めている。
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減（現場）		
数値目標	○	移転とビラ配り等の作業担当の変更により、目標数値達成。
・エコドライブの実践	○	引き続き、走行距離の効率化に取り組んでいく。
・効率的なルートで移動	○	
・積載オーバーをしない	○	
一般廃棄物の削減		
数値目標	○	新規事務員、外国人実習生の入社に伴い、再度分別の共有。
・分別の徹底	○	また、外国人実習生にも理解を深めてもらう為インドネシア語とイラストでの表記をし徹底を意識付け。
・裏紙使用	○	裏紙使用の際は個人情報・機密情報の漏洩についても周知。
産業廃棄物の削減		
数値目標	×	工事件数の増加により排出量も増加した。
・発生量の抑制	○	件数の増加による為、削減は難しいが、引き続き的確な分別と100%再生可能な産廃物になるよう努める。
節水		
数値目標	×	仕事内容に伴い使用量が増加した。
・節水表示	○	新規従業員への指導と外国人実習生にも配慮した表記で、引き続き節水を心掛ける。
環境に配慮した施工監理		
目標：実績収集	○	道路使用許可申請は662件/708件が電子申請。
・道路使用許可の電子申請化	○	93%とおおむね達成できた。
		未達の要因は突発的な工事の依頼によるもの。
		引き続き電子申請での申請を行っていく。
課題のチャンスと推進		
・多様なガス工事に対応できる体制の構築	○	協力会社も増え体制の構築もおおむね完了。
・工事管理システムの構築と運用による	○	工事管理システムを利用した運用は
現場及び管理の効率化		工事件数1,222件/1,222件と100%達成。
		引き続き運用し電子化と効率化に努める。

VII. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき事項	遵守評価
廃棄物処理法	廃棄物の適正な処理	遵守
建設リサイクル法	発注者への再資源化等完了報告と記録の保存	遵守
オフロード法	基準に適合した特定特殊車両の使用	遵守
騒音規制法	特定建設作業の事前届け出、規制基準の遵守	遵守 該当なし
振動規制法	特定建設作業の事前届け出、規制基準の遵守	遵守 該当なし
フロン排出抑制法	フロン類の登録充填回収業者による、適切な引渡し、定期点検	遵守
NO _x ・PM法	排気ガス規制に適合した自動車の使用	遵守
資源の有効な利用に関する法律	廃棄パソコンのリサイクル、適正処理	遵守
家電リサイクル法	家電製品の適正な処分	遵守 該当なし
消防法	消火器の設置、維持	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

2023年度3月13日に本社を倉敷市南畝より同市新田に移転した。これは近年著しく増加している岡山方面の工事に対する対応。2024年4月より始まる建設業の働き方改革に対応する為である。

3月以降片道10km程度の移動の削減のおかげでガソリン等の燃料量・残業時間・業務中の交通事故の数等に大きな変化があった。また自社で、開発した工事管理システム「RAKUNY」はさらに機能拡張や他社への販売等の展開を考慮し2023年8月に㈱RAKUNYを設立しシステムを譲渡後さらに開発を続けている。

そのRAKUNYを使い本年度はさらにDX化が進み工事管理が楽にできることで、工事着工までの期間が短縮され、工事量も増加し、協力会社も2社増えた。結果、売上も前年比125%となった。

一般的に工事量が増加すると管理が煩雑化し、苦情や事故が増えるといった例があるが、それもなく自社・協力会社ともRAKUNYを十分理解し使用することで情報の共有化がさらに進み事務所に問合わせの連絡があった場合、より早く具体的な対応が可能となり問合わせから苦情に発展することがほぼなくなった。次年度もDX化・電子化を進め電子マニフェストのRAKUNYでのやりとりや、トーク機能を使つての情報の共有化を進めることでさらに省力化を進め事故のない工事施工体制を作っていく。

環境経営方針の見直し	☐ 要	☒ 不要
環境経営目標・経営計画の見直し	☐ 要	☒ 不要
取組体制の見直し	☐ 要	☒ 不要
その他の見直し	☐ 要	☒ 不要

2023年11月30日

代表取締役 金光正義

IX. 環境への取組の紹介



＜タイムカードの導入＞



＜環境配慮の施工(電気自動車の導入)＞



＜情報漏洩に配慮した裏紙再利用の推進＞



＜節水の呼びかけ＞



＜清掃活動＞



＜近隣の自転車でのビラ配り＞

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1											
2						取組	評価				
3						荷物の積み降ろしの際は、アイドリングストップを心掛ける	○		○	吉市 智奈美	
4						急加速・急減速・急ブレーキを控える	○		△	山岡 めぐみ	
5						不要なものを持ち込まない	○		×	金光 紀子	
6						シフトアップは早めに行う	○			井本 佑理	
7						経済速度で走る	○			石丸 由理香	
8						無駄な走行をしない(例: 走行ルートの事前確認など)	○				
9						タイヤの空気圧を適正にする	○				
10						空ぶかしをしない	○				
11						エアコンの設定温度を抑えめにする	○				
12											
13						入力者: 石丸 由理香					
14						利用理由: 市役所訪問の為					
15											
16											

＜エコドライブチェック表の運用＞



＜朝礼での節水の呼びかけ＞

以上